



10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）

当事者A	年齢[45]歳、勤続年数[23]年、現場経験年数[23]年、階級[消防司令補]、同様の活動[頻繁]、任務[車長]
当事者B	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動[ ]、任務[ ]
当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動[ ]、任務[ ]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。



	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1	二階内部	燻焼中であった	
経過2	当事者A	二つ折れはしごを二階の窓枠にかけた	単独行動 小綱で手すりに梯体結着
経過3	当事者A	噴霧注水にて消火活動	窓は半開状態
経過4	付近住民	勢いよく駆けつけてきた	
経過5	当事者A	はしご上で異変を察し、「開けるな」と叫んだ	
経過6	付近住民	シャッターに手をかけ、一気に開放	軽量シャッター
経過7	当事者A	建物の陰に身を伏せた	
経過8		直後にフラッシュオーバーが発生したが、事故に至らず	
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】

事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？

ヒヤリハットの場合: ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

体力、反射神経等身体能力が優れていた。危険情報を把握、予見できた。集中力、注意力があった。避難・退避がうまくいった。その他: 梯体を決着していたため、バランスを崩さず身を隠せた

心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	いいえ
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	はい
・足元の強度が不足していた。	いいえ

指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	はい

その他

l. その他の理由があった。

はい：単独行動を取らざるを得ない状況下で、高所作業に従事するのは危険を伴う。梯上作業の場合、確保要員を兼ねた警戒要員を配置すべきであった。
---

・発生日時：平成7年4月17日 午前9時頃

経過	現場の状況	隊員A	その他	備考
		車長／消防司令補 ・年齢 45 歳 ・勤続 23 年 ・現場 23 年 ・同様の活動：頻繁	付近住民	
	木造及びブロック造二階建て住宅火災において、二階内部が燻焼中であった。	二つ折れはしごを二階の窓枠にかけた。		単独行動。小綱で手すりに梯体結着。
		噴霧注水にて消火活動。		窓は半開状態。消火に集中し一階の警戒を怠った。
			勢いよく駆けつけてきた。	
		はしご上で異変を察し、「開けるな」と叫んだ。		階下に警戒の要員を配置すべきであった。
			1階のシャッターに手をかけ、一気に開放。	軽量シャッター
		建物の陰に身を伏せた。		
	直後にフラッシュオーバーが発生。			
		炎を避けようとしてはしごから転落しそうになった。		
		事故には至らず。		

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

- ・体力、反射神経等身体能力が優れていた。
- ・危険情報を把握、予見できた。
- ・集中力、注意力があった。
- ・避難・退避がうまくいった。
- ・梯体を決着していたため、バランスを崩さず身を隠せた。

◎ヒヤリハットが起きた背後要因

- (活動環境について)
- ・野次馬が多かった。
  - ・足元が躓いたり滑りやすかった。
- (指揮・管理について)
- ・隊員が不足していた。
- (その他)
- ・単独行動を取らざるを得ない状況下で、高所作業に従事するのは危険を伴う。梯上作業の場合、確保要員を兼ねた警戒要員を配置すべきであった。